

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 28 年 4 月 7 日 (2016.4.7)

【公開番号】特開 2015-128348 (P2015-128348A)
 【公開日】平成 27 年 7 月 9 日 (2015.7.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2015-044
 【出願番号】特願 2013-273044 (P2013-273044)
 【国際特許分類】

H 0 2 K 7/06 (2006.01)

B 2 5 J 9/00 (2006.01)

F 1 6 H 19/02 (2006.01)

【F I】

H 0 2 K 7/06 Z

B 2 5 J 9/00 B

F 1 6 H 19/02 E

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 2 月 17 日 (2016.2.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

一軸アクチュエータとして、例えば特許文献 1 に記載された直動機構の防水構造が知られている。

この特許文献 1 の防水構造は、水が浸入する開口部を 2 枚のシール部材で閉塞し、スライダに設けた楔部を 2 枚のシール部材の間に配置し、スライダの直線移動とともに楔部が 2 枚のシール部材に密着することでシール性を確保するようにしている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【特許文献 1】特開 2 0 0 6 - 4 3 8 5 6 号公報

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

ところで、特許文献 1 の防水構造は、楔部を薄く形成するとシール性を高めることができるが、薄い楔部をスライダに設けた一軸アクチュエータは、耐荷重性や、ピッチング方向、ヨーイング方向、ローリング方向の耐モーメント性の面で問題があり、高負荷仕様とすることができない。

本発明は、上記従来例の未解決の課題に着目してなされたものであり、さらに、スライダが水没した環境でも高負荷仕様として使用することができる一軸アクチュエータを提供することを目的としている。